

生活

o-seikatsumen @asahi.com

低賃金ヘルパー足りぬ

消えた安全網 障害者自立支援法の課題

それでも月に数日、夜間介助を受けられない日がある。持病のため急に意識が混濁したり、体温がうまく調節できなくなったりする恐れは絶えずある。ヘルパーがいらない夜は、死の恐怖におびえる。

市の福祉事務所はヘルパーを探してもらったこともあるが、30を超す事業所から断られ、紹介された事業所も条件が折り合わなかった。

「ヘルパー不足で生存権すら危うい状況だ」

背景にあるのは、障害者自立支援法の介護報酬の低さだ。特に、重度訪問介護サービスの事業者の間では、十分な賃金が払えないためヘルパーが集められないとの声が根強い。

京都市障害保健福祉課によると、「ヘルパーを見つけてほしい」という利用者からの相談はこの1年、目立って増えできた。

斎藤泰樹・在宅福祉担当課長は「重度訪問介護の報酬は決して十分とは言えず、引き上げを国に求めている」と話す。

このデモの先頭には、赤い字で「過労死」と書かれたプラカードを手にした渡辺さん(32)の姿もあった。重度障害者の介助をするヘルパーの集まり「かりん燈」の万人の所得保障を目指す介助者の会(事務局・京都

「我々は生きるぞ」
「貧乏人の話を聞け」
7月20日、京都市中心部の河原町通。障害者本人と介助するヘルパーが一緒になり、障害者自立支援法の見直しを訴えるデモがあった。焼けつくような日差しの下、約100人が繁華街を進行した。

「ヘルパー不足で生存権すら危うい状況だ」
背景にあるのは、障害者自立支援法の介護報酬の低さだ。特に、重度訪問介護サービスの事業者の間では、十分な賃金が払えないためヘルパーが集められないとの声が根強い。

利用者「生存権の危機」 ■ 事業所「現場もたない」



若(介助者と一緒にデモ行進し、ヘルパーの待遇改善を訴える木村善男さん(中央) 17日、京都市内

市のメンパーだ。低賃金と重労働に耐えられなくなったヘルパーが職場を去り、残った人は過重労働でつぶれていく。渡辺さんらはここ数年、悪循環に陥った事業所を身近に見てきた。

市内の事業所に責任者として勤める男性(ヘルパー)は、デモに参加する予定だったがかなわなかった。変更のきかない介護予定があったからだ。

3月、同僚の20代女性が「この仕事を続けるのはきついな」と言い残し、看護師を目指したため退職した。7月、20代の男性職員が過労で入院した。

「一度一度出した。残業代は一部未払い。実質の手取りは月約25万円にとまる。」

この事業所では支援法が施行された06年、介助1時間あたりの平均収入が05年比で約5%、04年比で約12%下がった。いま報酬全体の9割を人件費にあてており、これ以上の時給引き上げは厳しい。「もう現場はもたない。何とか報酬を引き上げてほしい」

かりん燈の渡辺さんは「このままではヘルパーの過労死や重度障害者の死に事故が起きる」と警鐘を鳴らす。

24万円以上	5.5%
22~24万円未満	3.4
20~22万円未満	12.3
18~20万円未満	23.6
16~18万円未満	30.0
14~16万円未満	17.8
12~14万円未満	5.1
12万円未満	2.4

600を超す団体でつくる「障害者の地域生活自立の実現を求める全国行動実行委員会」と「かりん燈」は今年、障害者を介助するヘルパー約880人にアンケートした。それによると、月給制で働くヘルパーの基本給は平均18万円。1カ月分以上のボーナスありは15.5%、昇給ありは1.5%にとどまった。一方、月の平均労働時間(正職員)は194.7時間、過労死

過労死水準超す人16.6%

ラインの水準(日80時間の残業)を超すと考えられる「月240時間以上」の人が16.6%いた。実行委員会はこれとは別に07年秋、人材確保をテーマに事業者にアンケートし、全国73事業者から回答を得た。それによると、「過労死」を断るを得なかつた。答えた事業所が4分の3に達した。

介護の担い手不足は高齢者の分野でも深刻さを増し、社会保障の根底を揺るがす問題となっている。「介護従事者処遇改善法」が5月に国会で成立したが、具体策はまだ見えない。福祉現場の崩壊を食い止めるために、抜本的な対策を急ぐ必要がある。

ひまわり会=18~20日正午~午後4時、090・1247・0918、090・3871・0918▽日生病院=18、19日午前11時~午後3時、06・6543・3581▽大阪いさつ病院=18、19日午後2~4時、06・6775・3915▽女性の排尿障害を考える会=24~26日午後1時~4時、06・4795・5505▽神戸救済会病院=18、22日午前9時~正午、078・781・0767(予約受付)

女性 産後や加齢が原因で起こる女性の排尿障害について、元患者らでつくる「ひまわり会」と専門医が共同で電話相談を開設する。この症状は80歳までに10人に1人が発症する。「恥ずかしい」と人に言えずに悩んでいる女性は多い。適切な治療で尿もれは治ると知っている」としている。

童心にいやさう

「今日はおめでよう」。受話器(こ)に私の声を聞いた彼は「ああ、弘ちゃんか。今、かあちゃんと話していたよ。今日は僕の誕生日、昨日は弘ちゃんの誕生日だ」。彼より私は1日だけお姉さんだ。彼との出会いは国民学校1年生の時だった。2人が

けのいすに座り、机の上にはられた名前を1文字1文字指で押さえるが、お互いの名前を確認し合った。彼は長男。私は末っ子で「何をしても「お母さん」だ。かけっこ後、彼は「遅かったなあ。僕一番だったの」と、遅い私を気にかけてくれた。

夏休みの初日、私はラジオ体操のあることを聞き漏らし、参加できなかった。その時はたまに、彼も腹痛で欠席したらしい。登校してからの「病気がなぐてよかったね」と言われただけで拍子抜けした。その時の情景が今も鮮明に思い出される。

私はその言葉を聞き、仮病を使ったことがとても悪いことのように思えた。先生に本当のことを言い、謝罪した。叱られることを覚悟していたのに、「病気がなぐてよかったね」と言われただけで拍子抜けした。その時の情景が今も鮮明に思い出される。

い出される。あれから60年余り。5分足らずの会話を「瞬時に」当時の顔が浮かび、童心に帰った。今はどちらも連れ合いの介護をする身だ。来生も元気に「おめでようコール」ができることを祈り、快い気分です。

岡山県真庭市 森田 弘子 自営業・73歳